

十五夜

2022年は9月10日(土)

十五夜とは、旧暦の8月15日のお月見のことです。旧暦の8月が1年の中で最も空が澄みわたり月が明るく美しいとされていたため、平安時代から観月の宴が開催され、江戸時代からは収穫祭として広く親しまれるようになりました。お月見にお供え物をするのは、月が風雅の対象だけでなく、信仰の対象でもあり、この時期の収穫に感謝するということから、収穫物をお月様にお供えするようになりました。十五夜は、別名「芋名月」といい、里芋などの芋類の収穫を祝う行事でもあるため、里芋やさつま芋などをお供えします。他に十三夜は「栗名月」「豆名月」といい、栗や枝豆を十日夜は稲穂や米などをお供えします。

敬老の日

社会のために長年働いてきたお年寄りを敬い、長寿を祝う日です。



<長寿を祝う節目>

還暦(数え年61歳)…自分が生まれた年の干支に帰ってくるため還暦といい、「生まれ直す」としてお祝いする。赤ちゃんの赤、魔よけの赤にちなんで赤い品物を送る風習がある。

喜寿(数え年77歳)…喜という字の草書体が七十七に見えることから喜寿。

傘寿(数え年80歳)…傘という字の略字が八十と書くので傘寿。

米寿(数え年88歳)…米という字をばらばらにすると八十八になるので米寿。

白寿(数え年99歳)…百という字から一を取ると白になるので白寿。



秋分の日

秋分とは、昼と夜の長さがほぼ同じになる日で、半年前の春分とは逆に、少しずつ夜が長くなっていきます。お彼岸の中日でもあり、祖先を敬い、亡くなった人々を偲ぶ日でもあります。秋分の日を中日として、その前後3日、合計7日間を彼岸といい、初日を彼岸の入り、最終日を彼岸の明けといいます。

おはぎとぼたもち

みなさんが大好きなおはぎとぼたもちは、甘いものが貴重だった昔はごちそうであり、お供えやおもてなしとして春や秋のお彼岸には欠かせない食べ物です。どちらもよく似ていますが何が違うのでしょうか？

おはぎは、秋に咲く萩の花に由来します。材料となる小豆が秋に収穫されるため。とれたての小豆が使える秋は、皮ごと使ったつぶあんを使い小ぶりの俵のように作ります。

ぼたもちは、春に咲く牡丹の花に由来します。秋に収穫された小豆の固くなってしまった皮を取ってこしあんにして、大きめで丸い形に作ります。

お彼岸中に、給食でもおはぎを提供する予定です。

